

1 題材 「箏の響きに親しもう」

○教材 箏曲「六段の調」 作曲者 八橋検校

2 題材の目標

○音色・速度（序破急）の働きと曲想とのかかわりを感じ取って聴く力を身に付ける。

3 題材の評価規準と学習活動における具体的評価規準

a：題材の評価規準 b：学習活動における具体的評価規準

観点	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	エ 鑑賞の能力
a	箏の基本的な奏法や音楽を形づくる要素の働きと曲想に関心をもち、意欲的に活動に取り組んでいる。	箏の音色・速度（序破急）の働きや曲想を感じ取り、唱歌の表現を工夫している。	箏の音色・速度（序破急）の働きと曲想とのかかわりを感じ取って聴いている。
b	①箏の基本的な奏法や楽譜の読み方などを理解することに、意欲的に取り組んでいる。 ②音色・速度（序破急）の働きと曲想とのかかわりに関心をもち、意欲的に聴いている。	①音色・速度（序破急）の働きを知覚している。 ②唱歌をつくる体験活動で、音色・速度（序破急）の働きや曲想を言葉や声で表現することを工夫している。	楽曲全体を聴き、比喩的な表現などを用いて自分なりの言葉で紹介文を書き、読み合うことでイメージを伝え合い、要素の働きと曲想とのかかわりについて知的に理解している。

4 指導と評価の計画（全5時間）

イ 指導計画

次	◎ねらい/○学習活動	研究主題との関連	題材の評価規準との関連と評価方法など
1 (2時間)	◎箏曲「六段の調」を形づくっている要素の音色と速度（序破急）の働きについて理解する。 ○GTの指導から基礎を学ぶ。 （歴史、各部の名称、記譜など） ○箏曲「六段の調」に含まれる様々な奏法を学ぶ。 （裏連、引き色など） ○奏法による音色の違いを聴き取り、言葉や声に表す。 ○速度（序破急）の働きを知覚し、曲想とのかかわりを言葉で説明する。	・音色・速度（序破急）の働きと曲想とのかかわり	ア-① 箏を演奏する基本的な知識が理解できたかを、ワークシートへの記入内容を見たり活動の様子を観察したりして評価する。 イ-① 音色・速度（序破急）の働きが知覚できたかを、ワークシートへの記入内容を見て評価する。
	◎唱歌をつくる体験活動を通して、音色・速度（序破急）の働きについて知覚し、曲想を感受する。 ○唱歌とは何かを知る。 ○GTの歌う唱歌を参考にして唱歌をつくる。 ・箏の音色を聴き取る。(個別) ・イメージを言葉や声で表す。(個別) ・楽譜に書き込む。(個別) ・聴き取ったイメージを伝え合いながら、ふさわしいと思われる言葉や声をあてはめていく。(グループ) ・唱歌を箏の演奏に重ねて歌う。(グループ) ・音色に合っているか確認する。(グループ) ○グループごとにつくった唱歌を発表したり聴いたりして、感想を伝え合う。 ○音色・速度（序破急）の働きを知覚し、曲想とのかかわりを言葉で説明する。	・唱歌をつくる体験活動 ・イメージを伝え合う言語活動 ・音色・速度（序破急）の働きと曲想とのかかわり	イ-② 探したり、考えたり、あてはめたり、歌ったり、イメージを伝え合ったりする活動を観察し、楽譜に記入されている言葉の内容を見て評価する。

	◎楽曲全体を聴き、紹介文を書いたり読み合ったりすることを通して、互いの思考・判断に共感し、自己のものとして広げ、要素の働きと曲想とのかかわりを知的に理解する。	
3 (1時間)	○楽曲全体を鑑賞し、音色・速度（序破急）の働きと曲想とのかかわりを感じ取って聴いたことを、比喩的な表現などを用いて自分なりの言葉で説明する紹介文を書く。 ○紹介文を読み合い、互いの思考・判断に共感し、自己のものとして広げ、要素の働きと曲想とのかかわりを知的に理解する。	・音色・速度（序破急）の働きと曲想のかかわり ・イメージを伝え合う言語活動
		ア-② 要素の働きと曲想とのかかわりに関心を持ち、意欲的に聴こうとしているかを、紹介文を読んで評価する。 エ 比喩的な表現などを用いて自分なりの言葉で紹介文が書かれているか、読み合いながら互いの思考・判断に共感し、自己のものとして広げ、要素の働きと曲想とのかかわりを知的に理解しているかを、紹介文や感想を読んで評価する。

## 5 展開

### (1) 第1次（1，2時）の展開

学習活動・内容	指導の手立てと評価
1 本時の目標について確認する。	○授業の開始時からGTに「六段の調」を演奏してもらい、これから学習する内容を予感させる。
箏の音色や箏曲の速度の変化を聴き取ろう	
2 GTの指導から基礎を学ぶ。 (1) 構造や歴史について学ぶ。 ・歴史 ・各部分の名称 ・流派名と爪の形 (2) 基本的な奏法を習う。 ・演奏する姿勢・位置 ・爪の付け方 ・手の置き方 (3) 楽譜の読み方を学ぶ。 ・基本的な楽譜の仕組みと読み方 ・漢数字の意味 ・特徴的な奏法を表す記号 ・リズム (4) 日本古曲「さくら」を練習する。 ・今まで学習したことを確認する。	○GTの実演を交えてわかりやすく説明する。 ○ワークシートの番号順にポイントを説明する。  ○生田流の楽譜の拡大図を活用する。 ○日本古曲「さくら」を用いて具体的にGTの演奏をおりませながら説明する。  ○学習した内容の確認であり、日本古曲「さくら」を上手に弾くことが目的でないことを知らせる。
3 GTの演奏による箏曲「六段の調」を観察しながら聴き、特徴的な奏法を学ぶ。	

<p>(1) 特徴的な弾き方を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名称をワークシートに記入する。</li> </ul> <p>(2) 奏法による響きの違いを聴き取り、言葉に置き換える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音を言葉に置き換えたものをワークシートに記入する。</li> </ul> <p>(3) 特徴的な奏法を実際にやってみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・声と箏の音をあわせて練習する。</li> </ul> <p>4 初段、三段、六段を聴き、序破急による速度の変化を知覚する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのように速度が変化しているかを手拍子を交えて確認する。</li> </ul> <p>5 曲全体を鑑賞し感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した奏法が出てきた段をチェックする。</li> <li>・音色や速度の変化によってどのように雰囲気や表情が変化したかを書く。</li> </ul>	<p>○例を出して、どのように言葉に置き換えればよいかを具体的に示す。(擬音語にする)</p> <p>○GTの見本と似たような音色を出すこと、弾き方をまねることに留意させる。</p> <p>◎箏の基本的な奏法や楽譜の読み方などを理解することに、意欲的に取り組んでいる。(関心・意欲・態度)</p> <p>○何段目からどのように速度が変化しているかを聴き取れるように、段の変わり目で合図を入れる。</p> <p>○どのように雰囲気が変化していくかを「～のような感じ」という比喩的な表現を用いて表現できるようにする。</p> <p>◎音色・速度(序破急)の働きを知覚している。 (音楽的な感受と表現の工夫)</p>
--	---

(2) 第2次(3, 4時)の展開

学習活動・内容	指導の手立てと評価
1 本時の目標について確認する。	○課題が明確にとらえられるように前時までの学習内容を確認する。
唱歌づくりにチャレンジ!!	
<p>2 唱歌について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・唱歌とは何か</li> <li>・唱歌の歴史</li> </ul> <p>3 GTの歌う唱歌を参考にして唱歌をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・箏曲「六段の調」の初段、三段、六段から唱歌をつくりたい段を選ぶ。(次の活動を繰り返す)</li> <li>①箏の音色を聴き取る。</li> <li>②イメージを言葉や声で表す。</li> <li>③楽譜に書き込む。</li> </ul>	<p>○唱歌に楽しみながら取り組めるように雰囲気づくりをする。</p> <p>○先入観を与えないために唱歌についての説明や練習はできるだけ簡単にする。</p> <p>○それぞれの段を初級(初段)、中級(三段)、上級(六段)に分け、レベルを選択できるようにする。</p> <p>○言葉や声が思いつかないグループのために「箏で音をだす」「GTや先生に聞く」「ヒントカード」のコーナーをつくり、自由に行き来できるようにする。</p>

<p>④聴き取ったイメージを伝え合いながらふさわしいと思われる言葉や声をあてはめていく。</p> <p>⑤唱歌を箏の演奏に重ねて歌う。</p> <p>⑥音色に合っているか確認する。</p> <p>4 グループごとにつくった唱歌を発表したり聴いたりして、感想を伝え合う。</p> <p>5 音色・速度（序破急）の働きを知覚し、曲想とかがわらせて言葉で説明する。</p>	<p>○前時に奏法を聴き取って言葉や声で表したことを参考にできるようにする。</p> <p>◎唱歌をつくる体験活動で、音色・速度（序破急）の働きや曲想を言葉や声で表現することを工夫している。 (音楽的な感受や表現の工夫)</p> <p>○「このような言葉や声を使ったらうまく唱歌にすることができた」「このような点が大変だった」と説明できるようにする。</p> <p>○どのようにかかっているかを「～のような感じ」という比喩的な表現を用いて表現できるようにする。</p>
---	--

(3) 第3次（5時）の展開

学習活動・内容	指導の手立てと評価
1 本時の目標について確認する。	○課題が明確にとらえられるように前時までの学習内容を確認する。
「六段の調」のよさをみんなに紹介しよう！	
<p>2 楽曲全体を鑑賞し、音色・速度(序破急)の働きと曲想とのかかわりを感じ取って聴いたことを、比喩的な表現を用いて自分なりの言葉で説明する紹介文を書く。</p> <p>・以下の点に留意して紹介文を作成する。</p> <p>①音色の変化や序破急がどのように表情や雰囲気を変化させるか。</p> <p>②音色や序破急と曲の雰囲気や表情がどのようにかかっているか。</p>	<p>○音色や速度の変化に注目して聴けるようにする。</p> <p>◎音色・速度（序破急）の働きと曲想とのかかわりに関心を持ち、意欲的に聴いている。(関心・意欲・態度)</p>
<p>3 紹介文を読み合い、互いの思考・判断に共感し、自己のものとして広げ、要素の働きと曲想のかかわりを知的に理解する。</p> <p>・紹介文を読み合う。</p> <p>・教師が数人の紹介文を読むのを聴く。</p> <p>・感じたことを感想に書く。</p>	<p>○他の生徒の考え方や感じ方と自分のものとを比較しながら読めるようにする。</p> <p>◎楽曲全体を聴き、比喩的な表現などを用いて自分なりの言葉で紹介文を書き、読み合うことでイメージを伝え合い、要素の働きと曲想とのかかわりについて知的に理解している。 (鑑賞の能力)</p> <p>○要素と曲想のかかわりについて明確に述べられている文章を選び紹介する。</p>